

(14) NIE 研究会

会 長 三石 裕子 (西土佐中)
副会長 宮本 教子 (西土佐中)
事務局 井上 忠和 (西土佐中)

1. 研究主題 「新聞を活用した言語活動の充実」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場
4 月初旬～ 5 月 6 日 (金)	四万十市教育研究会組織総会 ・役員選出 ・研究主題設定 ・年間計画	
7 月 26 日 (火)	四万十市教育研究会 夏季研修会 第 1 回学習会 講話・演習「NIE 活用の基礎」 講師：高知新聞社読もっか NIE 編集部 岡林 知永 様	四万十市立 中村中学校

3. 今年度の取り組み

○第 1 回学習会

- ・ NIE に関する基礎知識とその応用・可能性及び高知新聞中学生用 PERATTO に関する活用法など講師より教わった。メンバーが少人数になったことで、質疑応答も各自が積極的に発言することができ、深いものとすることができた。

～研修後の参加者アンケートより～

- ・ 講師の高知新聞社読もっか NIE 編集部 岡林 知永主任には、適切な資料と参考になる講話の内容を準備され、オープンに情報提供やご指導をいただき、授業で活用できる資料やその際の指導の着眼点、そして、時事的な新聞記事や報道の取り扱いも含めて、勉強になる有意義な研修会となりました。
- ・ 今に求められている思考力・判断力・表現力（何を根拠に、どんな考えのもと、どのように自分の考えを書いたり話したりまとめたりするか）や資料活用能力（どんな資料を、どんな考えで、どう収集して、どう活用するのか）を育てるためには、この NIE 教育研究会で学び、話し合う内容がとても役に立つように思います。もっと会員が増えることを期待したいし、各校の校内研修等でも、適宜、学び合う必要性を感じます。
- ・ 情報活用能力の三つの側面や、教師と情報のかかわり方の変化などをわかりやすく説明していただきました。生徒が一人 1 台端末を持つ時代になり、生徒自身の情報を収集・整理・分析できる範囲が広まったことで、教師の役割が、情報の伝え役から生徒が情報・収集・分析したものまとめ役が変わってきたというお話は、授業における自分自身の立ち位置を見つめ直すきっかけになりました。

また、新聞記事の読み方や記事の書き方のポイントなど、授業などで活用しやすい情報もいただきました。2 学期以降の実践につなげたいと思います。

- ・岡林さん（講師）のお話は分かりやすいのでありがたいです。少人数だと講師との距離が近く、より具体的な内容で交流ができるという利点があります。その一方で、もっと多くの人にも聞いていただけるといいのに、とも思います。
- ・NIE = 「新聞を活用した教育」というこれまでの思い込みを捨てて、この情報化の時代を生きていくための力を子どもたちにしっかりとつけていく教育をしなければいけないと改めて思いました。とかく、狭い見識の中で生活し、時代の波に乗り遅れている私にとっては、教員以外の方のお話を聞けて、知見を広げるよい機会となっています。

4. 成果と課題

〈成果〉

- ・参加者が積極的に発言することで、内容をより深いものにすることができた。また、歴史に残るであろう事件や物事が起こった時の情報発信の裏側を知ることができ、知識の幅を広げることができた。
- ・高知新聞中学生用 PERATTO の活用を中心に中学校生徒のために即実践を行える学習会ができた。また、参加者同士の情報交換も活発に行えたことで、自校の取組に還元することができた。

〈課題〉

- ・夏季研修会と講師の日程が合わず日程調整を行ったが、少人数でもうまく調整がつかず1名不参加となってしまった。NIE 全国大会の日程が夏季研修会と重なっていたことに、事前に気づけていれば
このような事態は回避できたと思われる。来年度は、日程確認を事前に行っておく必要がある。
- ・各学校での様々な取り組みを共有できる機会があれば、より課題に迫る協議なども可能になるため各校の取り組み状況を記録しておくことが望まれる。

